

# 令和4年度環境とやま県民会議 事業報告

## 1 活動方針及び統一活動

私たちは、廃棄物などの身近な問題から、地球温暖化やプラスチックごみによる海洋汚染などの地球的規模の問題に至るまで、複雑かつ多様な環境問題に直面している。これらの環境問題に適切に対応し、本県の素晴らしい環境を次の世代に引き継ぐためには、私たち一人ひとりが、様々な環境問題を自分の問題として捉え、自らライフスタイルや事業活動のあり方を見直すなど、問題の解決に向けて行動を始め、その輪を広げていくことが求められている。

こうしたことから、当県民会議は、「脱炭素社会づくり・循環型社会づくりの推進」及び「環境教育・環境保全活動の推進」を柱とし、県民、事業者、民間団体、行政が情報を共有し、一体となって各事業を展開した。

とりわけ、富山県が目標とする「水と緑に恵まれた環境が保全・創造され、人と自然が共生しながら、持続可能でウェルビーイング（真の幸せ）が向上した社会」の実現に向けた活動を積極的に展開するとともに、統一活動として「とやまエコ・ストア制度」の普及・拡大や、とやま環境フェアなど各種イベントの開催・参加を推進し、県民のエコライフの定着・拡大を図った。

## 2 事業内容

### (1) 脱炭素社会づくり・循環型社会づくりの推進

#### <脱炭素社会づくり>

##### ① エコドライブ推進運動の実施

###### (ア) エコドライブの推進

- ・ 主 催 エコドライブとやま推進協議会、富山県、環境とやま県民会議、(公財)とやま環境財団（富山県地球温暖化防止活動推進センター）
- ・ 開催時期 令和4年4月～令和5年3月
- ・ 内 容 二酸化炭素排出量の削減だけでなく、燃費向上や交通安全にもつながるエコドライブについて継続した実践を促すため、各種イベント等において普及啓発を行った。

併せて、エコドライブとやま推進協議会が募集しているエコドライブ宣言に協力し、エコドライブ実践者の拡大を図った。

###### (イ) エコドライブ実践促進事業

- ・ 主 催 エコドライブとやま推進協議会、富山県、環境とやま県民会議、(公財)とやま環境財団（富山県地球温暖化防止活動推進センター）
- ・ 開催時期 令和4年10月9日（日）、10月10日（月・祝）
- ・ 内 容 エコドライブ実践の一層の定着・拡大を図るため、とやま環境フェアリアル会場において、気軽にエコドライブを体験できるシミュレーターを用いた体験会を開催した。

②「新しい生活様式」を踏まえた公共交通利用をテーマとした県民運動への参加

- ・主 催 富山県公共交通利用促進協議会
- ・内 容 鉄軌道の施設整備及びバス路線の運航維持等を支援するなど、公共交通の維持活性化・利用促進に向けた取り組みを推進した。

③宅配便の「再配達防止」の普及促進

- ・主 催 富山県、環境とやま県民会議、(公財)とやま環境財団（富山県地球温暖化防止活動推進センター）
- ・実施時期 随時
- ・内 容 近年の通信販売市場の拡大に伴い、二酸化炭素排出量の増加などで問題になっている再配達を削減するため、各種イベント等において普及啓発を行った。

④ゼロカーボンアクションの普及促進

- ・主 催 富山県、環境とやま県民会議、(公財)とやま環境財団（富山県地球温暖化防止活動推進センター）
- ・内 容 とやま環境フェアの開催に併せて「とやまゼロカーボンアクション推進キャンペーン」を展開し、県民の脱炭素の取組みを推進した。

⑤クールビズ、ウォームビズの実践及び啓発

- ・主 催 環境省、環境とやま県民会議
- ・開催時期 夏季、冬季
- ・内 容 季節に応じて快適で働きやすい服装やスタイルを実践するクールビズやウォームビズについて、構成団体に実践を呼びかけるとともに、ホームページ等により県民等に啓発を行った。

⑥企業の脱炭素化の推進

- ・主 催 富山県、(公財)とやま環境財団（エコアクション21地域事務局、富山県地球温暖化防止活動推進センター）
- ・実施時期 令和4年4月～令和5年3月
- ・内 容 中小企業向けの環境マネジメントシステムである「エコアクション21」制度の普及を図るとともに企業の脱炭素化を推進するためのセミナーの開催、脱炭素経営スタートガイドブックの制作・配布等による啓発を図った。

<循環型社会づくり>

①とやまエコ・ストア制度普及・拡大事業

- ・主 催 とやまエコ・ストア連絡協議会、富山県、環境とやま県民会議、(公財)とやま環境財団
- ・内 容 とやまエコ・ストア制度登録事業者が県民と協働で行う環境配慮行動を

促進するとともに、新たに「エコ・ストア」としてレジ袋削減、3R等に取り組む事業者を引き続き募集・登録し、その活動を支援するなど、「とやまエコ・ストア制度」のさらなる普及・拡大を図り、県民のエコライフの定着・拡大を推進した。

また、使い捨てプラスチックの排出抑制を図るため、食品トレイについて、ばら売り、袋売り等のトレイを使用しないノートレイや、紙や植物を使用したトレイやリサイクルトレイなどのエコトレイへの転換を促進した。

・登録状況 68社（1,056店舗）、6商店街（令和5年3月現在）

このほか、エコ・ストア優良取組事業所5社・団体に「エコフェストやま」の会場にて表彰式を実施した。

#### ②家庭系食品ロス削減対策事業

- ・主 催 富山県、（公財）とやま環境財団
- ・内 容 家庭での食品ロス削減の取組みを促進するため、未利用食品を福祉団体等へ寄付するフードドライブの実施を関係団体などに呼びかけ、リレー形式でフードドライブを実施するとともに、その結果をホームページやポスターでPRした。

また、地域の実情に応じた未利用食品のローカル循環及びフードドライブの常設窓口（無人）設置を推進するため、フードドライブ実施団体と食品提供先とのマッチング支援を行った（4事例）。

このほか、家庭で余っている食材を持ち寄って料理するサルベージ・パーティを推進するため、本県が認定したサルベージ・サポーター（講師）と開催を希望する団体等とのマッチング支援を行った。

#### ③いつでも、どこでもリサイクル促進事業

- ・主 催 富山県
- ・内 容 民間事業者等による資源物の回収拠点を認定し、住民に啓発することで、資源物回収量のさらなる増加を促進し、再生利用率の向上を図った。

#### ④プラスチック地域循環促進事業

- ・主 催 富山県
- ・内 容 県内で発生する廃棄物やバイオマス資源を活用して新たなプラスチック製品の検討・試作を実施した。

#### ⑤とやま環境フェアの開催

- ・主 催 とやま環境フェア2022開催委員会（富山県、富山市、環境とやま県民会議、（公財）とやま環境財団）
- ・開催期日 ウェブ会場：令和4年10月7日（金）～令和5年1月9日（月・祝）  
リアル会場：令和4年10月9日（日）、10日（月・祝）  
・3R推進月間に合わせて実施
- ・内 容 水と緑に恵まれた富山県の豊かな環境を守るとともに、よりよい環境を

創造するため、循環型・脱炭素社会や自然共生等をテーマに各種展示や実演、発表等を行い、環境保全について啓発を行った。

- ・実績 ウェブ会場 閲覧者数：5,840人  
リアル会場 来場者数：895人

#### ⑥環境とやま県民会議イベント（エコフェスとやま）の開催

- ・主催 富山県、環境とやま県民会議
- ・実施時期 令和4年10月10日（月・祝）（とやま環境フェア2022と併催）
- ・内容 3Rの推進や地球温暖化対策の推進に尽力した個人、団体等を表彰するとともに、ローカルSDGs（地域循環共生圏）の集いや2030 SDGs カードゲーム体験会の開催、ドキュメンタリー映画「マイクロプラスチック・ストーリー ～ぼくらが作る2050年～」上映により、環境保全について県民等に啓発を行った。

## （2）環境教育・環境保全活動の推進

### ①エコライフ・イベントの実施

- ・主催 県内10市、富山県、（公財）とやま環境財団
- ・内容 地域での取組みを推進するため、県内10市と連携して地球温暖化防止やごみゼロなどのテーマとした「エコライフ・イベント」を実施した。
- ・参加人数 5,422人

### ②環境保全・環境教育に関する活動支援事業

- ・主催 富山県、（公財）とやま環境財団
- ・内容 （公財）とやま環境財団に環境保全相談室を設置することで各種相談に対応するとともに、県内で行われている様々な環境保全・環境教育活動について、ウェブサイト「エコノワとやま」を通じた情報を発信し、環境保全・環境教育活動の拡大を図った。（登録数 150 団体）  
また、エコライフの実践を促すための普及啓発資機材の整備により活動支援の充実を図った。

### ③とやま環境未来チャレンジ事業

- ・主催 富山県、（公財）とやま環境財団
- ・開催期間 令和4年4月～令和4年12月
- ・内容 10歳の児童が、地球温暖化や食品ロス等の環境問題を学び、目標を決めて家族とともに家庭での対策を実践・自己評価する取組みを通じて、環境に配慮したライフスタイルの啓発や家庭における地球温暖化対策の推進を図った。また、地球温暖化対策や食品ロス削減などエコライフに関する副読本を県内全ての小学4年生児童に配布し、学校での授業及び実践活動を支援した。
- ・実施校数 県内全市町村 小学校 63 校
- ・参加者数 3,038 名

④スターウォッチング推進事業

- ・主 催 富山県、環境とやま県民会議、(公財)とやま環境財団
- ・開催時期 令和4年8月5日(金)
- ・内 容 大気汚染のない清澄な大気の大切さや街の明かりによる光害について理解を深めるとともに、身近な環境保全活動の実践を推進するため、星空観察会を開催した。
- ・参加社数 約60名

⑤はじめてのエコライフ教室の実施

- ・主 催 富山県、(公財)とやま環境財団
- ・内 容 幼児期から(家族ぐるみで)エコライフの理解・実践・定着を図ることを目的として、幼稚園・保育所等に地球温暖化防止活動推進員を講師として派遣し授業を行う「はじめてのエコライフ教室」を実施した。
- ・実施時期 令和4年6月～令和4年12月
- ・実施園数 15園
- ・参加者数 幼児371名、保護者83名